

- 問1 土倉や酒屋が金融業を行う際に、当時の日本で主に流通していた貨幣に関する説明として正しいものはどれですか。（2026年 山口県公立入試 類似）
1. 日明貿易（勘合貿易）などを通じて流入した、永楽通宝などの中国の貨幣
 2. 各藩が独自に発行し、領内でのみ使用が認められていた藩札と呼ばれる紙幣
 3. 幕府が国内の鑄造所で独自に製造し、全国に流通させた銅貨
 4. 金座や銀座において、幕府の管理下で製造された小判などの貴金属貨幣
- 問2 室町時代の1428年、近江の馬借（運送業者）などが中心となり、幕府に対して「借金の帳消し」を求める命令を出すよう要求して起こした大規模な暴動を何といいますか。（2024年 秋田県公立入試 類似）
1. 山城の国一揆
 2. 加賀の一向一揆
 3. 正長の士一揆
 4. 島原・天草一揆
- 問3 応仁の乱以後、室町幕府の支配力が弱まったことで、各地で実力のある者が上の身分の者を倒して勢力を広げる社会的な風潮が見られるようになりました。このような風潮を何と呼びますか。（2016年 岐阜県公立入試 類似）
1. 御恩と奉公
 2. 下剋上
 3. 徳政
 4. 寄合
- 問4 15世紀に成立した琉球王国の形成過程とその後の状況について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2023年 富山県公立入試 類似）
1. 中山の王であった尚巴志が各地の勢力を統合して建国し、首里を王都として中継貿易を推進した
 2. 元の襲来に対抗するため、沖縄島の有力者が九州の御家人と協力して北部に強固な城郭を築いた
 3. 江戸幕府の鎖国政策に従い、中国との交流を完全に断ち切って薩摩藩の直轄地として統治された
 4. 豊臣秀吉による全国統一の一環として実施された検地により、沖縄全土の石高が確定し首里に奉行所が置かれた
- 問5 室町時代に発生した「士一揆」において、農民たちが借金の帳消しを求めて主に襲撃した対象として、最も適切なものを選びなさい。（2022年 滋賀県公立入試 類似）
1. 周辺の国を治める守護大名
 2. 海外との貿易を独占する商人
 3. 朝廷に仕える公家や貴族
 4. 土倉や酒屋などの高利貸し
- 問6 11世紀から16世紀にかけての、武士による支配が全国に広まった時期の経済状況について述べた文として、正しいものはどれですか。（2023年 福岡県公立入試 類似）
1. 土倉や酒屋と呼ばれる業者が金融業を営み、幕府に税を納める一方で大きな富を蓄えた。
 2. 議会政治の導入とともに、官営模範工場を中心とした近代的な産業の育成が進められた
 3. 律令制度に基づき、公地公民の原則の下で政府が土地と民衆を直接支配した。
 4. 幕藩体制が確立し、株仲間と呼ばれる商人の組織が幕府から独占販売の特権を得た。
- 問7 室町時代に足利義満が明との間で開始した貿易では、明の皇帝からの文書に周辺諸国の王が挨拶に訪れている様子が記されており、日本からの貢ぎ物に対して礼をもって対応する形式がとられました。このように、相手国の皇帝の臣下となる形式をとることで成立した正式な外交および貿易関係を何といいますか。（2019年 静岡県公立入試 類似）
1. 朝貢貿易
 2. 不平等条約に基づく貿易
 3. 自由貿易
 4. 私貿易
- 問8 足利義満が明との貿易を推進したことにより、当時の日本国内の経済に与えた影響について述べたものとして、最も適切な説明はどれか。（2018年 岐阜県公立入試 類似）
1. 日本から銀が大量に流出したことで、国内の物価が下落し、自給自足の経済へ戻った。
 2. 明から大量の銅銭や生糸が輸入されたことで、国内の貨幣経済や産業の発展が促された。
 3. 鉄砲やキリスト教が伝来したことで、戦国大名の戦い方や思想に大きな変化が生じた。
 4. 綿花が大量に輸入されたことで、日本国内で独自の綿織物産業が初めて確立された。
- 問9 後醍醐天皇が始めた「建武の新政」に対し、足利尊氏が反乱を起こして京都に幕府を開くに至った歴史的背景とその後の状況について述べた文として、最も適切なものを次の中から選びなさい。（2024年 高知県公立入試 類似）
1. 平氏を滅ぼした後に後白河上皇と対立したが、朝廷から征夷大將軍に任命されたことを機に、政治の拠点京都から東国の鎌倉へと移した。
 2. 有力な守護大名の勢力を抑えるために京都の室町に花の御所を造営し、南北朝の合一を成し遂げることで將軍の權威を全国に知らしめた。
 3. 恩賞などで公家が優遇されたことに不満を持つ武士の支持を集めて挙兵し、京都に新たな天皇を立てたことで、二つの朝廷が並立する南北朝時代が始まった。
 4. 元軍の襲来以降に生活が困窮した御家人を救うために徳政令を發布したが、効果がなかったため、自ら新しい幕府を組織して政治の安定を図った。
- 問10 室町幕府の第8代將軍であり、1467年に始まった応仁の乱の時期に將軍職にありました。京都の東山に、禅宗の影響を受けた簡素な美意識を象徴する銀閣（慈照寺観音殿）を建立した人物は誰ですか。（2016年 香川県公立入試 類似）
1. 足利尊氏
 2. 足利義政
 3. 足利義教
 4. 足利義満
- 問11 琉球王国の首里城正殿に掲げられていた「万国の津梁」の鐘の銘文には、自国を「船を操り、万国の架け橋となって貿易を行う国である」という趣旨の内容が記されています。当時の琉球王国が、中国、日本、東南アジアとの間で行っていた貿易の実態を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2024年 大分県公立入試 類似）
1. 日本と中国の間の国交が断絶していたため、武力を用いて貿易ルートを独占した。
 2. キリスト教の布教を目的としたヨーロッパの国々と、火縄銃を中心とした取引を行った。
 3. 江戸幕府から許可状を与えられた船を用いて、東南アジアへ銀を輸出した。
 4. 各地の産物である刀剣、陶磁器、染料などを別の地域へ転売して利益を得た。
- 問12 15世紀に成立した琉球王国において、政治・文化の中心地となり、日本や中国、東南アジアを結ぶ中継貿易の拠点として繁栄した都の名称を次の中から選びなさい。（2023年 静岡県公立入試 類似）
1. 首里
 2. 漢城
 3. 十三湊
 4. 大都
- 問13 室町時代、足利義政が京都の東山に慈照寺を建立した時期に栄えた、書院造などが取り入れられ現代の和風建築の基盤となった文化の名称を選択してください。（2015年 大分県公立入試 類似）
1. 東山文化
 2. 北山文化
 3. 元禄文化
 4. 桃山文化
- 問14 室町幕府の政治体制について、最高職である管領の説明として最も適切なものはどれですか。（2021年 和歌山県公立入試 類似）
1. 北条氏が世襲でその職に就き、実権握って將軍に代わり政治を行った。
 2. 足利氏の一门である細川・斯波・畠山の三氏が交代で任命され、將軍を補佐した。
 3. 九州地方の軍事や警察、外交を統括するために設置された地方の長官である。
 4. 有力な譜代大名の中から複数が選ばれ、月番交代で幕政を運営した。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 日明貿易（勘合貿易）などを通じて流入した、永楽通宝などの中国の貨幣	室町時代、日本国内では貨幣の鑄造は行われておらず、日明貿易などによって中国（明）から輸入された永楽通宝や洪武通宝などの銅銭が流通していました。土倉や酒屋はこれらの貨幣を用いて高利貸しなどの金融活動を行っていました。江戸時代の小判や藩札と混同しないよう注意が必要です。
問2	答え 3 正長の土一揆	室町時代の正長元年に発生した、最初の大規模な土一揆です。運送業者である馬借や近郊の農民たちが団結し、借金の帳消しを意味する「徳政」を求めて蜂起しました。これがきっかけとなり、幕府に対して徳政令の発布を求める動きが広まりました。
問3	答え 2 下剋上	応仁の乱によって幕府や守護大名の支配力が衰えると、下の者が上の者を実力で打ち倒して権力を握る「下剋上（げこくじょう）」の風潮が強まりました。これにより、各地で実力を持った戦国大名が台頭し、日本は戦国時代へと突入していきました。
問4	答え 1 中山の王であった尚巴志が各地の勢力を統合して建国し、首里を王都として中継貿易を推進した	琉球王国は、中山の尚巴志が北山と南山を統一したことで成立しました。統一後は首里城を政治・文化の中心とし、日本、中国、朝鮮、そして東南アジアの品々を売買する中継貿易で大きな富を蓄えました。選択肢にある元寇や太閤検地は、琉球王国の統一とは直接的な関係がありません。
問5	答え 4 土倉や酒屋などの高利貸し	当時の農民は、生活費や年貢の支払いのために、土倉（どそう）や酒屋といった金融業者から借金をしていました。土一揆が発生すると、農民たちはこれらの高利貸しを襲い、借金の証文を破壊したり奪い取ったりすることで、実力行使による債務の免除を狙いました。これは「私徳政」とも呼ばれ、社会不安の一因となりました。
問6	答え 1 土倉や酒屋と呼ばれる業者が金融業を営み、幕府に税を納める一方で大きな富を蓄えた。	室町時代を中心とするこの時期は、農業生産力の向上を背景に商工業が大きく発展しました。特に京都などの都市部では、質屋を営む「土倉」や、酒造業の傍らで高利貸しを行った「酒屋」といった金融業者が台頭しました。室町幕府はこれらの業者に課税することで重要な財源を確保し、その代わりに彼らの営業を保護しました。他の選択肢にある律令政治は古代、幕藩体制は江戸時代、議会政治は近代の特徴であるため、混同しないよう注意が必要です。
問7	答え 1 朝貢貿易	室町時代の対明貿易は、当時の東アジアの国際秩序であった「華夷秩序」に基づいて行われました。足利義満は明の皇帝から「日本国王」として認められ、貢ぎ物を送ることで正式な外交ルートを確認しました。これにより、倭寇（海賊集団）と区別された安全な貿易が可能となり、多大な経済的利益と文化的な影響を日本にもたらしました。
問8	答え 2 明から大量の銅銭や生糸が輸入されたことで、国内の貨幣経済や産業の発展が促された。	日明貿易では、日本からは刀剣や硫黄などが輸出され、明からは銅銭（永楽通宝など）や生糸、書画などが輸入されました。特に大量の銅銭が流入したことは、それまで未発達だった日本の貨幣経済を大きく前進させ、市場の活性化につながりました。
問9	答え 3 恩賞などで公家が優遇されたことに不満を持つ武士の支持を集めて挙兵し、京都に新たな天皇を立てたことで、二つの朝廷が並立する南北朝時代が始まった。	建武の新政では、武士の土地所有権が不安定になったり、恩賞が不公平であったりしたため、武士たちはかつての幕府のような武家政権の再興を望みました。足利尊氏はこの期待に応える形で後醍醐天皇に背き、京都（北朝）と吉野（南朝）という二つの朝廷が約60年にわたって争う事態を招きました。なお、南北朝の合一や室町での御所造営は、3代将軍の足利義満の事績です。
問10	答え 2 足利義政	室町幕府の第8代将軍である足利義政は、応仁の乱という動乱期にありながら、東山文化と呼ばれる独自の文化を築きました。第3代将軍の足利義満が建立した金閣（北山文化）が豪華絢爛であるのに対し、義政が建立した銀閣は、わび・さびを感じさせる質素で落ち着いた趣が特徴です。
問11	答え 4 各地の産物である刀剣、陶磁器、染料などを別の地域へ転売して利益を得た。	琉球王国は「万国の津梁（世界の架け橋）」として、各国の「産物」を仲介する役割を担いました。中国からは陶磁器や絹織物、日本からは刀剣、東南アジアからは染料などを仕入れ、これらを他の地域へ売ることで「宝物」を集め、繁栄を築きました。幕府の許可を得て行う朱印船貿易や、キリスト教を伴う南蛮貿易とは異なる形態です。
問12	答え 1 首里	1429年に尚巴志が三山を統一して成立した琉球王国は、現在的那覇市にある首里に都を置きました。首里は、中国から受けた冊封（朝貢貿易）や、地理的利点を生かした東南アジア・日本との中継貿易によって経済的に大きく発展しました。他の選択肢である十三湊は中世の津軽の貿易拠点、漢城は朝鮮王朝の都、大都は元（モンゴル帝国）の都を指します。
問13	答え 1 東山文化	室町幕府の8代将軍である足利義政が、京都の東山に山荘（後の慈照寺）を建てた時期に発展した文化を東山文化と呼びます。この文化では、禅宗の影響を受けて「わび・さび」という質素で深みのある美意識が重んじられました。3代将軍の足利義満による北山文化が公家文化の華やかさを併せ持つのに対し、東山文化はより精神性を重視した点が特徴です。
問14	答え 2 足利氏の一门である細川・斯波・畠山の三氏が交代で任命され、将軍を補佐した。	管領は将軍に次ぐ役職であり、幕府の政務を統括する役割を担いました。足利氏と血縁関係の近い有力な守護大名である細川・斯波・畠山の三家が交代で就任する仕組みとなっており、幕府の権威を維持しつつ、有力大名の不満を抑える側面もありました。